

## 淡江大學九十三年學年度轉學生招生考試試題

89-1

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

准帶項目請打「○」否則打「×」	
×	簡單型計算機

節次：7月14日第4節

本試題共 2 頁

一、下列成語均有日文格言，請翻譯出來。每題4分，共20分。

(注意：日文均需注音，寫錯或沒寫者一字扣1分)

- 1、一曝十寒
- 2、一箭雙雕
- 3、智者千慮
- 4、自吹自擂
- 5、馬耳東風

二、閱讀此文後回答下列問題。每題5分，共30分

## 通勤電車の中のモノ言わぬ人たち

私鉄の通勤電車を三十年近く利用している。電車の中では本を読むが、疲れると車内で観察して過ごす。すると、何気ない (a) ことが気になったり、小さいことに腹が立ったりする。

「そんな、どうでもいいことに腹を立てる (b) のは若さがなくなった証拠だ」と、知人はいう。「そうかな、やっぱり」と私は苦笑するが、納得したわけではない。自分の腹立ちを知人に言わせれば、ウジウジとこだわっている。

たとえば、込んでいる電車に乗り、つり革にたどりついたら、目の前の座席の乗客が平然と尿を悩むか、長い足を聞き、堂々と前に突き出していたとする。そんな時、迷惑そうな顔をチラッと見せるだけで、何も言わないのが、電車の中のマジョリティーだ。

その我慢強さには、足を突き出す乗客の存在以上にイライラさせられる。実は、足を突き出しているのはほとんど若者たちだ。こういう若者の前に立つと、今の私は一言いわないと気がすまない。(c)

できるだけ穏便に「申し訳ないが、足を引っ込めてもらえないか」というと、相手は大抵ビクツとする。続いて、あわてて足をたたむ (d) 者もいれば、プスツとした顔でシブシブという場合もある。どちらにしろ、迷惑な足は引っ込む。

相手が拒否したり、言いかえしたりすると、面倒だとは思いますが、そういう事態になったことはない。

通勤電車の中は、何かにつけて乗客がものをいうのを遠慮している沈黙の社会である。

冬、暖房が効きすぎて、大半の乗客が汗をかいているのに、誰も窓をあけようとしないう。「その窓、開けてもらえませんか」という人もいない。そうして、全員が暑さにじっと耐えている。

座席に人半分だけの隙間があり、詰めあえば、一人座れるのに、「詰めてもらえないか」という人はそれほど多くはない。まして、座っている人が「詰めますから、どうぞ」と申し出ることはもっと少ない。

モノ言わぬ社会では、喧嘩は起こりにくい。振り返ると、30年間、車内で乗客同士が、激しく争うのを目撃したのは一度だけだ。

体を押し合いながらの車内で、こうも争いが少ないのを、私は日本人の美徳の一つだと思ってきた。

今は、本当に美徳なのか、と思いつめている。

私たちの社会は押し合い (e) の社会だというのが、実は主張し合い、助け合うことを避けてきただけではないのか。その結果、争いが少ないのだとしたら、一種のぬるま湯社会 (f) に過ぎない。

通勤電車の中で、乗客たちがものを言おうとしないのは、他人には立ち入らず、傷つけあわずに行こうと思っているからだろう。

我慢強いだけでなく、他人に優しくしようと思ひ、また、他人から優しくされたいと思っている人たちなのだ。

だが、本当は保身的なのだといったら、果たしてどんな反論があるだろうか。

そして、これが一番気にかかることだが、いざというときに、言いたいことを言うことを放棄してしまっているようにも思えるのである。

# 淡江大學九十三年學年度轉學生招生考試試題

89-2

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

准帶項目請打「○」否則打「×」	
×	簡單型計算機

節次： 7 月 14 日 第 4 節  
本試題共 2 頁

- 1、請寫出底線(1)的中文意思。
- 2、請寫出底線(2)的中文意思。
- 3、請寫出底線(3)的中文意思。
- 4、請寫出底線(4)的中文意思。
- 5、請寫出底線(5)的中文意思。
- 6、請寫出底線(6)的中文意思。

三、請將此文翻譯成中文。50分

## 夫の生き方 妻の生き方

男が女を選ぶのではなく、女に選ばれる時代になるのではなからうか。男に養われる点ばかりが、今までクローズアップされてきたが、夫と妻、という形をよく考えてみると、養われ、生かされ、守られているのは、男女のどちらであろうか。そこばかりの金は問題ではないのだ。

男が女に子供を生まれ、家を守らせるというのではなくて、女がその男の子供を産んでやり、家をちゃんと整えてやり、男が世の中へ出て、働けるようにしてやる、そのおかげで、男は一人前の顔をして、世渡りができるのだ。

実際、きちんとした躰を受けた娘、学歴を修得した娘、健康で健全な良識ある女が、一生自分と行を共にしてくれて、自分を守り、引き立ててくれるというのは、男にとって、何という大きな恩恵であり、資産であろうか。私はかなり前から、男の子の教育は一にかかって、「いい女に選ばれること」にある、と、男の子を持ったお母さんは、ぜひそうつけてほしい、と声を大にして言っているのだ。東大へ入れて役人にするより、その方がなんぼう大切なことか。

この男のためなら、よし、一丁、生涯かけてみよう、といい女に思い込ませる、そういういい男に育ててほしいのだ。

男の仕事は、そういういい女とめぐり会うことも男子一生の事業の何割かは占めるであろう。男本人がいくらあがいても、ついている女がつまらなければ人生の開花は望めない。いい女をひきつけるに足る魅力と迫力、可愛げを男の子に持たせてほしい。

そして女の子も自分の値打ちをよく知って尊重してくれるいい男を選ぶ、その能力を、女の子を持ったお母さんはつけてやってほしい。

男の子に可愛げを、女の子に剛毅果敢、自立の精神を、というのが、私の年来の願いなのであって、そうすれば、家庭における男尊女卑思想はなくなるかもしれない。男の子だから、食後、テレビを見過いてもよい、女の子だから、台所を流しなさいという躰は私は反対で、将来、いい女に認められる男に育てようとするれば、阿呆な生活無能力者にせず、どんどん家の仕事もさせるべきである。男の子だから女の子だから、という旧来のやり方で育てられると、彼らが自分自身の家庭を持った時に、歪みが出てくるのだ。妻は旧来の家庭像に自分を殺して嵌め込むには耐えられなくなっている。家庭はその重みで、根太が支えきれず、ついに傾いてしまうのである。